

令和4年度 第1回学校運営協議会・学校関係者評価委員会 議事録

期日：令和4年4月28日（木）

10：00～11：50

場所：岡山西支援学校小会議室

出席者：委員11名

岡田委員、河合委員、祇園委員、熊代委員、澤井委員、田中委員、
萩原委員、村上委員、森委員、安原委員、山岡委員

本校職員7名

平垣副校長、神田事務長、清岡教頭、小川教頭、小田教頭
濱野主幹教諭、吉住生徒指導主事

1 開 会

（学 校 長） 今年度4月から学校評議員会を発展・充実させて本協議会の取り組みをスタートさせる。いわゆるコミュニティスクールといわれる制度であり、周りの方々としっかりコミュニケーションを図りながら学校を運営していきたい。これからの会ということで、協議の内容を学校経営計画にも反省させて、長期的な視点で取り組んでいきたいので協力をお願いしたい。

<出席者自己紹介>

（学 校 長） 本来であれば、規約に従い会長に議事進行を依頼すべきだが、第1回ということで、事務局において進行をさせていただきたい。また、協議に先立って、会長と副会長を選出することになっている。本来は互選であるが今回は初めてということもあり事務局から提案したい。

（事 務 局） 会長を学識経験者の岡田委員、副会長を特別支援学校長経験者の安原委員としてはいかがか。

（委 員） <賛成多数により了承>

（会 長） こういった会に参加するのは初めてだが、運営等、事務局と相談しながらより良い学校運営ができるよう尽力してまいりたい。

（副 会 長） 大役をいただいた。私事になるが特別支援教育のスタートを切ったのが本校であり、教諭・教頭として特別支援教育を行う教員として半分近くお世話になった。そのころと比べて学校・社会が変化していることも踏まえて微力ながら会長を助けてまいりたい。

2 協 議

(1) 令和4年度学校運営について

<校長が資料により説明>

(学 校 長) 目標について端的にいえば、豊かな人間性をしっかり育みながら子どもたちの自立と社会参加を目指していきたい。本校入口の体育館横の碑にある「いつもにこにこ元気仲良く根気よくがんばる子」という言葉に集約されるのではないかと思う。仲良くといういわゆる集団生活の中で調整していく力、そして、元気にという安全や健康を大事にするということ、そして根気よくという継続していく、努力していくということを教員にも子どもたちにも求めながら教育目標を達成していきたい。

(2) 各学部の取組について

<各部教頭が資料により説明>

(小 教 頭) 小学部は学校生活12年間の前半、スタートの大切な部分を担当している。素敵な大人になるための入口として、生活習慣を獲得することを大切にしたい。もう一つ、本校の子どもが住んでいる近所の学校や、本校の近くの学校と直接、間接交流に力を入れたい。その中で子どもだけでなく教員同士が交流しながら、専門性を提供できたらセンター的機能の提供にもつながると考える。

(中訪教頭) 中学部はこれまで積み上げた力を高等部・その後へつなぐということを意識している。経験の拡大を図ることを大切にしたい。具体的には、御南西公民館の活用や、御南中学校との交流および共同学習を今年度も大切にしたい。また、昨年度ひらた旭川荘のトモニーきずなで職場体験も行うことができた。このように公共資源を活用しながら経験を積み、力を伸ばせるよう指導してまいりたい。

(高 教 頭) 高等部は卒業後の生活を強く意識している。校内での実習から現場での実習へと段階的に行っている。また、地域型実習も行いたい。新型コロナウイルス感染症の影響も鑑みつつできることを実施したい。また、5つの班別学習での活動を、公民館やひらたの市での販売、地域の高齢者の方の訪問などにつないでいきたい。

(中訪教頭) 訪問教育は、全員が医療的ケアを必要としており、健康状態を第一にしながら、保護者や医療機関と密に連携を図って教育活動をすすめている。また、本校同学年の通学生や、地域の方との様々な活動でつながることを大切にしたい。

(3) いじめ対策について

<生徒指導主事が資料により説明>

(生徒指導主事) 本校の児童生徒の中には、複雑な家庭環境で生活基盤に課題があったり、自分の思いをうまく伝えられなかったり受け取れなかったりし不登校を示す

など、自己肯定感が低い者も在籍している。いじめは絶対に許さないという教師の基本姿勢を基に、複数の目で児童生徒の小さな変化を見逃さないようにするとともに、児童生徒自身が自分から大人に言える力をつけられるよう指導してまいりたい。

学校関係者評価委員会説明

(事務局) 校内参観の授業時間の関係で説明を先にさせていただき、後程ご意見をいただきたい。

<主幹教諭が資料により説明>

(主幹教諭) 保護者用アンケートと学校アンケートを用いて計画的に評価を行っていきたい。第2回の委員会において結果を報告したいと考えている。また、第3回において学校評価書をお示しし、意見や助言をいただく予定としている。

(4) 校内参観

<校内を参観>

(5) まとめ(ご意見・ご感想)

(委員) 綿密な計画の下に教育活動がすすめられていると感じた、本日説明のあった計画に基づき、さらに発展していくことを期待している。

(委員) 私が毎朝学校の前で交通整理をしていると、本校高等部の生徒がさわやかな挨拶をしている。実際に、本校を見学したのは初めてだが大変丁寧に一人一人に関わっている姿に敬意を表したい。これからも、交流ができることを期待する。

(委員) 今日もここに来る前に農場などを見ながら来た。畑などをきれいにしているのをいいなと思っている。コロナ禍でここしばらく来れていなかったが、廊下などがきれいになったと感じた。また、タブレット端末を上手に使っていることにも感心した。勉強も遊びにも使えそうだ。

(委員) (中学部が紹介した) 土ひねりやフラダンスなど、地域の大人との関わりの中で学んで行ってほしい。また、アルミ缶の回収なども仲良く来てくれていて、引き続き頑張ってもらいたい。要支援者の防災訓練を7月23日に計画しているので、ぜひ先生方にも参加してほしい。

(委員) 平成26年から防災の取組を機につながった。コロナ禍で中断しているが、地域と学校が互いに理解し合うために大切な活動だと思うのでぜひ再開してほしい。地域に住んでいる本校生徒が気持ちよく挨拶できるようになってうれしく思う。

(委員) 平成15年、旭川荘が運営を委託されて以来のお付き合いで、当時はわかくさ学園があってよく本校に来ていた。ひらたえがお保育園の園長として、本校小学部に子どもが入学したり、本校卒業生を保育補助者として雇用したりと

関係が深い。意見交換しやすいので今後もよろしくお願ひしたい。

- (委員) いつも思うことだが、各教室の子どもの写真の笑顔がいい。撮る人の子どもへの思いが伝わる。小学部での素敵な大人の入口としての生活習慣とキャリア教育の確立、中学部での大切な経験からの成長、高等部では実践的な教育、一貫した教育がなされていると思った。また、子どもがのびのびと過ごしているとも感じた。
- (委員) 岡山市障害者基幹相談支援センターは昨年6月、ひらた旭川荘内部に立ち上がった。多くの先生方と課題を共有しながら取り組んでいるところである。本校には久しぶりに来校した。地域の方との関わりも深く、開かれた学校づくりに向け、一緒に考えていけたらと改めて思った。
- (委員) 自分がいた頃から施設設備が変わってないが、古くてもきれいにされていると感じた。子どもたちが生活しやすいよう様々な手順シートなど環境調整がなされている。その支援が、学部が上がるごとに個に応じたものから集団での学びあいを意識したものになっている。また、視線を気にする子も多いと思うが、全体的に見通しがよく、外から見ても先生と子どもがどんな活動をしているのかよく見えた。
- (委員) 4月一番落ち着かない状況の中で、子どもたちがどうやって新しい環境になじむか、心配しながら期待を込めて見守っている。保護者としてお願ひしたいのは、ミッションとして挙げられた、個別性や小中高の一貫性。これはやはり大切だと思う。保護者との信頼関係を構築する上で、学校では当たり前でも保護者にとって当たり前ではないこともあるので、何かあったらこまめに連絡を取り合えると、受け身でなく話し合える機会ができると思う。

3 閉 会

- (学 校 長) 評議員会から運営協議会に発展させたことで、委員の方々からの意見の幅の広がりを実感した。今、私たちが頑張ることを再確認できたとともに、協働という言葉から、本校が支援をしていただくだけでなく、私たちの学校が地域のために何ができるか考えているところである。防災や学校の見学など、可能な範囲で検討するとともに、保護者との密な連絡も大切にするなどしっかり取り組んでまいりたい。